



LONGIN

We create in Tokyo Japan since 2011

WEB MAGAZINE Vol.



キックビートのコンセプトを濃縮継承したキックビート 55mmは、70mmでは攻めきれなかったシャローエリアやハイブレッシャー状況下のセレクトティブなターゲットに対し、出来るだけスローに長い時間アピールする事で口を使わせる事を可能にしたダウンサイジングモデル。キックビート 55は、ただサイズを小さくしただけではありません。ボディ形状、ウェイトバランスも徹底的に見直し、水揚げを少し抑え70mmのアクションより少しバုပ်振動を強く設定することで、小型サイズながら高い操作性とハイアピールを実現。ディゲームや水深のあるポイント、足場の高いポイントなどで、今までのバイブレーションやミノーでは攻めきれなかった場所を狙い打てる設計となっています。

キックビート 70mm 20g 1,470円(税込) ※030.033(産卵仕様カラー)のみ1,575円(税込)



**55mm
新発売!**

キックビート 55mm 12g 1,365円(税込) ※030.033(産卵仕様カラー)のみ1,440円(税込)

KICK BEAT

背中のあたりに最大の体高を持つ菱形の一般的なバイブレーションとは違い、キックビートはボディ後方上下にヒレを配し、後方に向かうにつれて体高が高くなる抽自設計。このシルエットこそ、キックビート最大の特徴である「水揚げの強い大きな波動」を生み出す秘密が隠されています。この独自のデザインを採用することで、「水平なスイム姿勢を保ち、かつ強い波動を出す」という従来のバイブレーションの形状では両立が難しかった矛盾点をクリア。水平姿勢を保ちながら強い波動でアピールできるため、ターゲットに違和感を与えずバုပ်に持ち込むことが可能です。また、ヒレが矢先の矢しりの役目を果たすことで飛行姿勢を安定させ、自重と相まって更なる飛距離を生み出します。

2013 new color complete change!

実践の中で生まれた“必然”。キックビートのカラーラインナップが一新します!



カラー(左1上から): 010 産卵イグニッション、022 フルーマイグニッション(シャイン)、024 ネタルレンズ、026 レンズキャンディー(産卵)、029 チョートパールオレンジ(パール)、031 アクアオレンジ(パール)、032 ブラックキャンディー(マフマ)、033 ゴールドレインボーオレンジ(パール)、034 グリーンゴールドイグニッション、035 ヤーコ(ジャコ)、036 ヒンクチャート(パール)、038 レッドヘッド(産卵パール)

東京湾奥シーバス攻略法

三宅流



LONGIN. フィールドスタッフ三宅氏が、湾奥の釣りの特徴と、自ら実践している『魔法のタイミング』の作り方について徹底解説!

Text by 三宅善洋

東京湾奥の特徴とは？

東京湾奥のシーバスゲームというと、妙に繊細でテクニカルな…ちょっと特殊な釣りをイメージされる方もいらっしゃるかとは思いますが、実際のところ、それほど他の地域と基本が異なっているわけではありません。しかし、あえて湾奥のシーバスゲームの特徴をひとつ挙げるとすれば、それは「マッチザベイトだけの概念にとどまらず、ルアーの特徴を使いこなし、仕掛けにいく面白さ」ということではないかと思っています。

シーバスの個体数が少ない地方や魚の移動が激しい



湾奥には港湾部だけでなく河川や運河などが絡んだ合流点や橋脚、ゴロタ場など様々なポイントが存在している。魚影が濃くエントリーもしやすいので釣り人も多い。

外洋に面したエリアなどでは、シーバスは完全にベイトを意識して釣り場を回遊しているので、ベイトの動向を捉えておかないとそもそもシーバス釣り自体が成り立たなくなるので、その場合は、「マッチザベイト」の考え方が重要となってきます。しかし、東京湾奥では目に見えるベイトをルアーで模倣することだけでは正解とはならず、狙う状況次第では一見何に似せているのか全く分からないルアーで爆釣！という状況がよくあるのです。

例えば、東京湾奥では秋頃にシーバスゲームの最盛期を迎えますが、そこで重要なファクターとなるのがサッパというベイトです。サッパはニシン科の小型魚で、扁平な体型に銀色のキラキラ光る魚体をしており、尾鰭をパタパタと振りながら細かく水を振動させるように泳ぎます。では、秋によく釣れるルアーはサッパに似たシャッド系のプラグなのか？ と考えてみると、必ずしもそのようなルアーだけがよく釣れるわけではないことに気が付くはずです。

つまり、サッパは沿岸部や河川へ魚を呼び寄せる重要なファクターのひとつであることには間違いのないのですが、やってきたシーバスは

必ずしもサッパだけを食べているわけではなく、エサが食べやすく居心地の良い地形に陣取って、イナッコだったりボトムのハゼやカニだったり……というように、目の前にあるいちばん捕食しやすいものを優先して食べています。

もちろん、春のバチパターンの時のように目に見えて特定のベイトを偏食しているようなときには、捕食物にルアーを合わせていかないと喰いついてくれない状況もありますが、湾奥では案外そのようなときのほうが珍しいのです。

魔法のタイミングがカギを握る!

では、マッチザベイトが通用しない釣り場の状況で効率よく釣果を得ていくための秘訣とは何なのでしょう？

それをルアーセレクトと使用法という切り口から考えた場合には、プラスチックの塊に過ぎないルアーヘシーバスがバイトせずにはいられない「魔法のタイミング」をいかに作り出せるか、ということだと私は考えています。

「魔法のタイミング」とは、言い換えるなら居心地の良い地形に陣取った魚が、目の前を通ったルアーが自分にとって一番捕食し易い対象だ！と思わせることのできる時間のことです。よく定番と言われるルアーは、広い場面においてこのタイミングを作り出すことに長けたルアーなのだと思いますが、LONGINのルアーも「魔法のタイミング」を作り出すことの出来る非常に強力なルアーであり、私自身も使い込むほどに自分の釣果が伸びていくことを実感しています。

この「魔法」という言葉についてはなかなか文字で表現することが難しいのですが、



使いやすいサイズ、ウエイトが揃ったキックビートは、三宅氏の湾奥必携ルアーとなっている。

ひとつは「ルアーへの水当て具合を加味したうえでのアクションの性質」だと解釈して下さい。具体的な「魔法のタイミング」の作り方については、次の項目で説明します。

角度 30 度内で勝負する、入魂のドリフトメソッド!

シーバスは基本的には潮の流れの効いている時間帯に活性が上がりやすい傾向があります。それは居心地の良い地形に着いたうえで、流されてくるエサを効率よく捕食していくためです。

縦ストラクチャー際をダート系の釣りで狙う夏場とは違い、秋～冬以降にかけては瀬やスリット、定番となる橋の明暗部など、地形に定位して流下してきたベイト捕食する個体を狙うドリフト系の釣りが強くなるのが季節的な特徴です。

ドリフトメソッドでシーバスを狙う場合には、U字ターンの頂点を食わせるべき点に合わせていくことが定石になりますが、私はそれをさらに細かく分けて釣りを組み立てています。

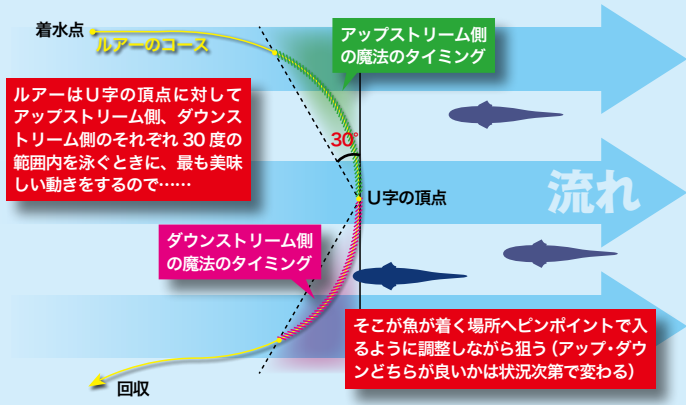
これはどういうことかという、U字ターンをルアーがポイントへ入っていくアップストリーム側と、ポイントから遠ざかっていくダウンストリーム側の2つに分け、さらに各々ポイントに対してU字の

頂角にプラスして、アップとダウンの約30度の角度内がルアーを最も食わせやすい「魔法のタイミング」になると考えています。

魚が流下するエサを意識している時やプレッシャーのかかった状況であればアップ側の30度内、比較的活性の高い場合や多少は遊泳力のある



シーバスが捕食しやすいタイミングをしっかりと意識することも、湾奥で釣果を伸ばす方法のひとつだ。



エサを良く見ている魚の場合であればダウンの30度内が勝負するタイミングになります。とはいえ、どっちが正解なのかはその日の状況次第になりますので、実際に釣り場で試しながら答えを探していくこととなります。これを意識しながらプレックスやキックビートを使うと湾奥では釣果が出やすくなると思います。

浅いレンジの究極のフィネスベイト：プレックス

湾奥でのプレックスは、基本的には先述した角度調整しながらのドリフトでポイント流し込んでいくのが有効な使い方となります。プレックスはヘッドの断面がある程度水流を掴むよう広めに面を取っており、ある程度重さを感じながらリトリブすることができるので、この釣りには非常に使いやすいルアーだと言えます。使うシチュエーションはプレッシャーが掛かっているときや反応するルアーにセレクトイ



プレックスのフォローベイトとしての性能の高さは、ぜひ使ってみて実感して欲しい。

ブになっているときなど、主に「浮いているけど食わせづらい魚」と勝負する際に非常に有効です。

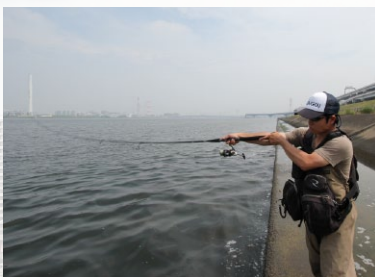
プレックスを使っていて興味深い釣果傾向があるのですが、それは大小を問わず居る魚を何でも拾ってきてしまうということ。プレックスはサイズの的には85mmと決してマイクロルアーではないのですが、小型魚でもこれだけ高い確率にてバイトしてくるのは他のルアーには無い特性になります。ルアーフィッシングにおいて、魚がルアーへバイトするためには魚自身がルアーを自分より弱い生物だと思いこむ必要があるのですが、そんな弱くて食べやすいベイトを模して魚の食欲を刺激することが出来るのが、プレックスの大きな特徴と言えるのではないのでしょうか。

居るはずだけどどうも食わない?! 絶対に居るはずだから一撃で食わせたい! そんなときこそ、究極のフィネスベイト、プレックスを手にとってみてください。

低活性攻略のボトムドリフト!: キックビート

湾奥のキックビートを使った釣りは、日中の早巻きに加えて個人的に面白いと考えているのが、夜間ボトムレンジを探るドリフト系のメソッドです。

キックビートは特徴的な後方のヒレによって水を押す面積が広く、魚を寄せる波動が強いのですが、水平姿勢を保つためにアイやウエイトの位置設定などにこだわった結果、水を受け流すことに非常に長けたルアーとなっています。そのため、水を動かし過ぎないようにスローに引いた場合には、実に食べやすそうな弱々しいベイトを演出することが出来



キックビートはスピードを極端に落としても動かせるので、昼夜を問わず強いバイブレーションだ。



湾奥ではシーバスに交じってクロダイが掛かることも。特にタイトに狙っているときに多く釣れる。

るのです。

使うイメージとしては「重く深いレンジを泳ぐシンキングペンシル」といった感じです。具体的な使い方としては先に述べたドリフトメソッドの通りになりますが、キックビートの場合は水を動かし過ぎないようにスローにリトリブすることがポイントになります。

バイブレーション独特の振動が手元に伝わらないくらい、軽くロッドティップに重さを感じる程度にルアーへ水を当てていくイメージで調整していくとよいでしょう。

魚に食わせるポイントヘドリフトさせていったときに「軽くボトムにコンタクトする程度」がその状況に合っている重さの目安になります。このボトムコンタクトが、活性が低くボトムに張り付いた魚からリアクションバイトを引き出すための、重要な食わせる要素となってきます。余談になりますが、地形をタイトに攻める釣り方になりますので、比較的型の良い魚が釣れやすいですね。

キックビートには20g、15g、12gと3種のウエイトが存在していますので、流れの速さや水深によって使い分けてみて下さい。

釣れる時は、正直何をやっても釣れてしまうのがシーバスという魚ではありますが、逆に幅広い条件でも安定した釣果を得るためには、様々な状況にアングラ側が細かく対応していかなければなりません。それを「レンジ」という概念で考えた場合には、トップからボトムまで、いかにして最もバイトを引き出せる正解の棚を探し当てるかという話になります。そして、渋いと言われる場合の多くは、魚が沈みボトムにへばりついており、餌を追う範囲が狭くなってしまっているのだと思います。そんな状況下でバイトを引き出すために重要な



三宅氏の釣行に伊藤が同行したときのひとコマ。キックビートをはじめ伊藤が作ったルアーの使い方を確かめ合うように語りあう二人の姿が印象的だった。

るのは、いかにタイトにボトムを攻めることが出来るか。場合によってはボトムに当ててやることで反射食いを誘うことが出来るか、ということに尽きます。

ちょっとした工夫でキャッチ率&回収率アップ!

ボトムをタイトに攻める場合に注意しなければならないのは、言うまでもなく根掛かりによるルアーロスト。環境にもお財布にも良くないですし、釣りのテンポも悪くなってしまい、何ひとつ良いことはありません。さて、そんなやっかいなルアーロストを減らすための対策を挙げると、ポイントは大きく2つあります。1つ目は根掛かりの確率をなるべく減らすこと。2つ目は仮に根掛かりしても回収できる確率を上げることです。

まず1つ目についてですが、私の場合フックをWフックへ変更しています。もちろんWフックに変えたからといってすべての根掛かりを防ぐことは不可能なのですが、その確率を減らすことは可能です。ここで注意すべき点ですが、フックの重さが変わるとアクション

に影響が出てしまうので、標準装備のリングとトレブルフックを足したウエイトと、変更後のWフック単体のウエイトをなるべく近づける必要があります。私はカルティバ STINGER DOUBLE SD36 # 2 を使用していますが、これならばデフォルトのフックセッティングからアクションは大きく変わりません。



魚が着きやすい牡蠣殻の多いゾーンを徹底的に狙うためには、こういった工夫をすると釣りがやすくなる。

2つ目はラインを操作性に支障が出ない限界の太さのものを使用することで対策しています。そのために、メインラインはPEなら最低でも20lb以上の強度のある1.2～1.5号を、リーダーは30lb以上のフロロカーボンを使用しています。ここまで強くすれば、よほどルアーがしっかり障害物に掛かってしまわない限りは、フックが伸びたりボトムの牡蠣殻を引き剥がせるのでルアーを回収することが可能です。もちろん、あまりにもラインが太すぎると釣果に影響が出てしまうので、バランスを見ながら調節してみてください。

私が実践している東京湾奥の攻略法について簡単に記載させていただきました。でも、これはあくまでも一例です。100人の釣り人がいれば、100通りの釣り方があるのがルアーフィッシングの面白さです。固定概念を持たずに色々試せば、魚はきっと期待に応えてくれるはずです。これから最盛期を迎えるシーバスゲームをLONGIN.のルアーを使って楽しんでもらえれば幸いです！



三宅善洋 (みやけ・よしひろ)

LONGIN.フィールドスタッフ。東京湾奥エリアをホームとするアングラー。幼少より過ごした宮崎県での釣り経験をもとに、独自のロジックに基づいた都市型フィールドでのテクニカルゲームを得意とする。

LONGIN. が贈るフリーペーパー

ロンジンマガジン Vol.2

弊社製品取扱店にて絶賛配布中です!



LONGIN
We create the best fishing gear in Japan since 2011

フランキー新登場!
ロングインが誇る最新鋭のフラッシュペンギン。おなじみのフラッシュペンギンとは異なるカラーとデザインで、よりリアルな泳ぎを実現するニューモデルです。

**井上ゆうきが語る
キックビートの魅力!**
スペシャルインタビュー! ショートキャストに必要不可欠なバイブレーションとは、?

トランプの本面専製がアスルトップウォーターゲームのススメ
これを知ればもっと釣れる
ジョイントルアーで
パチゲーム徹底攻略!

伊藤 二インタビュー
製品開発物語②
フランキー誕生秘話
山内 勝己ファーストインプレッション!
欲しかったルアーは釣れるサーチベイト!

今号は3大新色を含む200以上のアイテムを収録!

UOL

昨年刊行された弊社刊のフリーペーパー『ロンジンマガジン』第2号がいよいよ配布開始!

前号より大幅にボリュームアップした今号は、新製品フランキーのインプレや制作者・伊藤による開発秘話、ジンペンやプレックスを使った攻略法、そしてあの有名アングラー・井上ゆうきさんによるキックビートの解説も収録!

さらにロンジン全製品のカタログも掲載。カタログページではキックビートの2013新色ラインナップをWEBに先駆けて、いち早く紹介しています!

弊社代表の伊藤も愛読書としているロンマガ2号、ぜひ店頭にてお手に取って下さい!(ロンマガ1号はメーカー在庫切れしております。ご了承下さい)

ロンジンマガジン Vol.2

配布価格: ¥0 (フリーペーパー)

版型: A5版 24ページオールカラー

発行: 株式会社 LONGIN.

LONGIN. 製品取扱店にて無料配布中
(数に限りがありますので、品切れによる配布終了の際はご容赦下さい)



LONGIN

WE STRIVE TO Tokyo JAPAN since 2011

WEB MAGAZINE Vol.11

発行日：2013年9月18日

株式会社 LONGIN.